

はっとい院長の健康トーク Vol.6



金沢市大友1丁目109番地
はっとい大腸肛門クリニック
服部 和伸
076-238-8101

肛門のかゆみについて

肛門のかゆみを訴えて来院する患者さんは、当クリニックでは全患者さんの約1割にも相当します。

かゆみの原因はほかの病変があって、そのためにかゆみを感じる場合（続発性肛門掻痒症）と、いろいろと検査をしても原因がよくわからない場合（特発性肛門掻痒症）があります。

続発性肛門掻痒症の原因

肛門疾患（痔核・痔瘻・裂肛・直腸炎など）によるもの。寄生虫（蛭虫・毛しらみ・疥癬など）によるもの。肛門真菌症（カンジダなど）によるもの。肛門周囲皮膚炎（軟膏・消毒薬・石鹸など）によるもの。全身疾患（糖尿病・肝硬変など）によるもの。婦人科疾患（慢性膣炎など）によるもの。薬（テトラサイクリン系の抗生剤の服用）がかゆみの原因となることがあります。

いずれの場合でも肛門周囲を不潔にすることや湿った状態を続けることでますます悪くなります。

おしりを搔かない

最初の原因がどうであれ、慢性化したかゆみの方は、かゆいからおしりを搔く。それでできた創は最初痛みを伴いますが、治りがけにはかゆみに変化します。それにより再びかゆくなるという悪循環に陥っています。治療はこの悪循環を断ち切ることが、大切です。おしりを搔かないことが一番です。これはトイレットペーパーでこすり過ぎない、お風呂のときにタオルでこすり過ぎないことも含まれています。

肛門を清潔に

肛門を清潔にしてください。排便後はウォシュレットやシャワーで洗い、できれば温風で乾燥させてください。またはガーゼなどの柔らかいものでこすらずに拭いてください。軟膏を塗るように言われた方は薬を塗りすぎないように少量をよく伸ばして塗って下さい。

肛門を清潔にするために石鹸や消毒薬を使用する方がいらっしゃいますが、これらの薬が皮膚炎をおこすことがありますので、注意が必要です。

最近ウォシュレットの普及とともにウォシュレットを使いすぎる病気も報告されています。洗いすぎること、皮膚の常在菌がいなくなり、普段悪さをしない弱い菌が活動する「ウォシュレット症候群」です。ウォシュレットの使いすぎには注意しましょう。

かゆみが強い方は内服薬の痒み止めを使う場合もあります。適切な軟膏を投与しますが、治療のために使用した軟膏でますます病状が悪化することがありますので、ぜひ専門医の診察を受けて下さい。

上記の治療で良くならない場合はアルコールなどの特殊な薬を使って、肛門の神経を麻痺させるために注射療法をすることがあります。

いずれにしろ、肛門のかゆみを感じたら、適切な薬を使用しなければ良くなりません。恥ずかしいからと言って、安易に市販の薬に頼らずに専門医の診察を受けましょう。